

平成4年度
卒試

I IgA腎症の(1)定義、(2)発症機序、(3)病理、(4)臨床、(5)治療について述べよ

II 本態性高血圧症の治療について述べよ

III 慢性関節リウマチに伴う肺病変（胸郭内病変）について述べよ

IV 敗血症性ショックの(1)起炎菌、(2)臨床症状、(3)サイトカインの関与と
その病態、(4)治療について述べよ

V 悪性腫瘍の養子免疫療法について述べよ

1. Overflow蛋白尿として認められるのはどれか

- (1) Bence-Jones蛋白
- (2) β_2 -ミクログロブリン
- (3) リゾチーム
- (4) ミオグロビン

- a. (1)(3)(4)のみ
- b. (1)(2)のみ
- c. (2)(3)のみ
- d. (4)のみ
- e. (1)~(4)のすべて

2. 尿比重が正常より低くなるのはどれか

- (1) 糖尿病
- (2) 造影剤使用後
- (3) 尿崩症
- (4) 急性腎不全利尿期
- (5) 心因性多尿

- a. (1)(2)(3)
- b. (1)(2)(5)
- c. (1)(4)(5)
- d. (2)(3)(4)
- e. (3)(4)(5)

3. 索球体濾過値(GFR)を低下させるのはどれか

- (1) 加齢
- (2) 妊娠
- (3) アンギオテンシンII
- (4) エンドセリン

- a. (1)(3)(4)のみ
- b. (1)(2)のみ
- c. (2)(3)のみ
- d. (4)のみ
- e. (1)~(4)のすべて

4. 腎尿細管・間質の機能として重要なのはどれか

- (1) エリスロポエチンの産生
- (2) ビタミンDの水酸化
- (3) クレアチニンの排泄
- (4) アンギオテンシンIの変換
- (5) 尿の酸性化

- a. (1)(2)(3)
- b. (1)(2)(5)
- c. (1)(4)(5)
- d. (2)(3)(4)
- e. (3)(4)(5)

5. 尿細管で大部分が再吸収されるのはどれか

- (1) ブドウ糖
- (2) クレアチニン
- (3) ナトリウム
- (4) 尿酸

- a. (1)(3)(4)のみ
- b. (1)(2)のみ
- c. (2)(3)のみ
- d. (4)のみ
- e. (1)~(4)のすべて

6. 正しい組合せはどれか

- (1) 低カリウム血症 — 濃縮尿
(2) 原発性アルドステロン症 — 腎不全
(3) フアンコニ症候群 — 骨軟化症
(4) 遠位尿細管性アシドーシス — 尿酸性化障害
(5) ループ利尿薬 — 偽性バーター症候群

a. (1)(2)(3)
d. (2)(3)(4)

b. (1)(2)(5)
e. (3)(4)(5)

c. (1)(4)(5)

[症例] 37歳の男性。1ヶ月程前に感冒様症状が出現後、下腿の浮腫と肉眼的血尿を認めて来院した。来院時検査では、血清尿素窒素 37mg/dl、血清クレアチニン 2.5mg/dl、一日尿蛋白量 3.5g/日、尿沈渣赤血球 多数/1視野、ASLO 80 Todd 単位であった。

7. 認められる可能性が最も少ないのはどれか

- a. 抗基底膜抗体陽性
- b. 抗好中球細胞質抗体(ANCA)陽性
- c. selectivity indexの低値
- d. 半月体形成
- e. 尿中NAG高値

[症例] 21歳の男性。2週間前に感冒に罹患後、体重が5kg増加し、下腿浮腫が出現して来院した。尿沈渣 赤血球 0-1/1視野、1日尿蛋白量 4g/日、血清総蛋白 5g/dl、selectivity index 0.05、ASLO 160 Todd 単位、血清C3 60mg/dl、血清C4 20mg/dl、ANF X40。

8. この患者に認められるのはどれか

- (1) 基底膜上皮細胞側の沈着物
 - (2) 上皮細胞foot processの消失
 - (3) 基底膜におけるヘパラン硫酸の減少
 - (4) 係蹄壁の二重化
- a. (1)(3)(4)のみ
 - b. (1)(2)のみ
 - c. (2)(3)のみ
 - d. (4)のみ
 - e. (1)～(4)のすべて

9. この患者の治療として適当でないのはどれか

- a. 高蛋白食
- b. 副腎皮質ステロイド薬
- c. ステロイドパルス療法
- d. 免疫抑制薬
- e. 抗凝固療薬

10. 慢性腎不全に特徴的な症候はどれか

- (1) 代謝性アシドーシス
- (2) 低カルシウム血症
- (3) 低マグネシウム血症
- (4) 肝腫大
- (5) 等張尿

a. (1)(2)(3)
d. (2)(3)(4)

b. (1)(2)(5)
e. (3)(4)(5)

c. (1)(4)(5)

11. 急性腎不全(腎性)に特徴的な検査所見はどれか

- a. 尿浸透圧 500 mOsm/l 以上
- b. 尿Na濃度 40 mEq/l 以上
- c. 尿中Na分離排泄率(Fractional Na Excretion) 1% 以下
- d. 尿と血清のクレアチニン比 20 以上
- e. 尿と血清の尿素窒素比 10 以上

[症例] 30歳の男性。慢性腎不全で定期的に通院している。2年前、血清クレアチニン 2.0 mg/dl 、クレアチニクリアランス 45 ml/min であった。その後も徐々に血清クレアチニンは上昇し、現在は 4.0 mg/dl である。体重の変化はない。

12. この患者における現在の1日尿中クレアチニン排泄量(mg/日)はどれか

- a. 2,800
- b. 2,100
- c. 1,400
- d. 700
- e. 350

13. アニオン・ギャップ(anion gap)が正常な代謝性アシドーシスを示すのはどれか

- (1) 尿細管性アシドーシス
 (2) 糖尿病性アシドーシス
 (3) 乳酸アシドーシス
 (4) 急性腎不全
 (5) 炭酸脱水素抑制薬(ダイアモックス)服用

14. 高カルシウム血症でみられるのはどれか

- (1) 乏尿
 (2) 悪心
 (3) 意識障害
 (4) テニ

a. (1)(3)(4)のみ b. (1)(2)のみ c. (2)(3)のみ
d. (4)のみ e. (1)～(4)のすべて

15. 血清ナトリウム 128 mEq/l がみられるのはどれか

- (1) 尿崩症
 (2) 原発性アルドステロン症
 (3) 肝硬変
 (4) Addison病
 (5) Cushing症候群

16. 糖尿病にみられる高カリウム血症の原因はどれか

- (1) 低下の取り込みのみの細胞内合成障害
(2) 血中ウム細胞の細胞内合成障害
(3) 血中ウム細胞の細胞内合成障害
(4) 血中ウム細胞の細胞内合成障害

a. (1)(3)(4)のみ b. (1)(2)のみ c. (2)(3)のみ
d. (4)のみ e. (1)～(4)のすべて

17. 糖尿病性腎症について正しいのはどれか

- (1) 糖尿病の病原性症候群が、主として尿発膜が腎管に合併するものである。

a. (1)(3)(4)のみ b. (1)(2)のみ c. (2)(3)のみ
d. (4)のみ e. (1)～(4)のすべて

18. 血糖コントロールの指標として正しいのはどれか

- (1) 貧血がある患者では、血中ヘモグロビンA1c値が低くなる
(2) 低蛋白血症がある患者では、血中フルクトサミン値が低くなる
(3) 腎機能低下がある患者では、一日血糖検査はあてにならない
(4) 一日尿糖排泄量が30gであれば、良好なコントロール状態と判断してよい
- a. (1)(3)(4)のみ b. (1)(2)のみ c. (2)(3)のみ
d. (4)のみ e. (1)～(4)のすべて

19. 本態性高血圧の一般療法として正しいのはどれか

- (1) Na制限
(2) Ca制限
(3) 運動
(4) 肥満のある場合の減量
- a. (1)(3)(4)のみ b. (1)(2)のみ c. (2)(3)のみ
d. (4)のみ e. (1)～(4)のすべて

20. 降圧薬の副作用として正しい組合せはどれか

- | | | |
|----------------|---|---------|
| (1) サイアザイド系利尿薬 | - | 高尿酸血症 |
| (2) 抗アルドステロン薬 | - | 高カリウム血症 |
| (3) ACE阻害薬 | - | 頻脈 |
| (4) Ca拮抗薬 | - | 咳嗽 |
| (5) β遮断薬 | - | 徐脈 |
- a. (1)(2)(3) b. (1)(2)(5) c. (1)(4)(5)
d. (2)(3)(4) e. (3)(4)(5)

21. 慢性関節リウマチ(RA)について正しいのはどれか

- (1) 悪性RAの頻度は約10%である
(2) 続発するアミロイドーシスの前駆蛋白は免疫グロブリンL鎖である
(3) 嘉肺とRAの合併をFelt症候群という
(4) 悪性RAでは低補体血症が特徴的である
- a. (1)(3)(4)のみ b. (1)(2)のみ c. (2)(3)のみ
d. (4)のみ e. (1)～(4)のすべて

22. 比較的男性に多い疾患はどれか

- a. 全身性エリテマトーデス
b. シェーグレン症候群
c. 強皮症
d. 大動脈炎症候群
e. 結節性多発動脈炎

23. 正しい組合せはどれか

- (1) ウエグナー肉芽腫症 - 抗好中球細胞質抗体
(2) 全身性エリテマトーデス - 抗Sm抗体
(3) 混合性結合組織病 - 抗RNP抗体
(4) 強皮症 - 抗Jo-1抗体
(5) シェーグレン症候群 - 抗ヒストン抗体
- a. (1)(2)(3) b. (1)(2)(5) c. (1)(4)(5)
d. (2)(3)(4) e. (3)(4)(5)

24. 全身性エリテマトーデス(SLE)について正しいのはどれか

- (1) SLEの直接死因では、感染症が最も多い
(2) ループス腎炎のWHO分類I型は、膜性腎炎型である
(3) 低補体血症は、SLEの活動性の指標として重要である
(4) 口腔潰瘍は、SLEの分類基準に含まれている
- a. (1)(3)(4)のみ b. (1)(2)のみ c. (2)(3)のみ
d. (4)のみ e. (1)～(4)のすべて

25. 正しい組合せはどれか

- (1) ウエグナー肉芽腫症 - 鞍鼻
(2) 結節性多発動脈炎 - 外陰部潰瘍
(3) ベーチェット病 - 虹彩毛様体炎
(4) 大動脈炎症候群 - 肺梗塞
- a. (1)(3)(4)のみ b. (1)(2)のみ c. (2)(3)のみ
d. (4)のみ e. (1)～(4)のすべて

26. 正しいのはどれか

- (1) 機能的残気量は残気量よりも多い
(2) 肺気腫では、静肺コンプライアンスが増加する
(3) 肺気腫では、肺拡散能は低下しない
(4) 緩解期の喘息患者では、気道過敏性の亢進はみられない
- a. (1)(3)(4)のみ b. (1)(2)のみ c. (2)(3)のみ
d. (4)のみ e. (1)～(4)のすべて

27. A-aDO₂が開大しないのはどれか

- (1) 換気・血流比不均等
(2) 拡散障害
(3) 短絡(シャント)
(4) 肺胞低換気
- a. (1)(3)(4)のみ b. (1)(2)のみ c. (2)(3)のみ
d. (4)のみ e. (1)～(4)のすべて

28. 閉塞性障害をきたすのはどれか

- (1) 肺気腫
- (2) びまん性汎細気管支炎
- (3) 気管腫瘍
- (4) 特発性間質性肺炎
- (5) 肺梗塞

a. (1)(2)(3)
d. (2)(3)(4)

b. (1)(2)(5)
e. (3)(4)(5)

c. (1)(4)(5)

29. 動脈血 CO_2 分圧の上昇を伴った低 O_2 血症 (II型呼吸不全) になるのはどれか

- (1) 肺気腫
- (2) 神経・筋疾患
- (3) サルコイドーシス
- (4) 特発性間質性肺炎
- (5) 結核後遺症

a. (1)(2)(3)
d. (2)(3)(4)

b. (1)(2)(5)
e. (3)(4)(5)

c. (1)(4)(5)

30. 酸素解離曲線が右方にシフトする病態はどれか

- (1) アシドーシス
- (2) 2,3-DPGの増加
- (3) 体温の上昇
- (4) 動脈血 PCO_2 の増加

a. (1)(3)(4)のみ
d. (4)のみ

b. (1)(2)のみ
e. (1)～(4)のすべて

c. (2)(3)のみ

[症例] 40歳の男性。気管支喘息患者。昨日から咽頭痛と発熱があり、市販の解熱剤を服用したところ、急に息苦しくなった。 β -刺激薬の吸入をくり返したが、軽快せず、救急外来を受診した。チアノーゼが認められ、その後から意識レベルが低下してきた。

3 1. 予想される動脈血ガス分析所見はどれか

- a. PH 7.30, PaO₂ 42 Torr, PaCO₂ 65 Torr
- b. PH 7.30, PaO₂ 42 Torr, PaCO₂ 30 Torr
- c. PH 7.50, PaO₂ 42 Torr, PaCO₂ 65 Torr
- d. PH 7.50, PaO₂ 60 Torr, PaCO₂ 30 Torr
- e. PH 7.45, PaO₂ 72 Torr, PaCO₂ 30 Torr

3 2. すぐ開始する治療として不適当なのはどれか

- (1) ネオフィリン^R (キサンチン製剤) とソルコーテフ^R (副腎皮質ステロイド薬) の持続点滴を開始
 - (2) メプチン^R (β -刺激薬) のネブライザーによる吸入
 - (3) ナザールカニューラによる酸素吸入の開始 (8L/分)
 - (4) 挿管と人工呼吸の準備をする
 - (5) エピネフリンの皮下注射
- a. (1)(2)
 - b. (1)(5)
 - c. (2)(3)
 - d. (3)(4)
 - e. (4)(5)

3 3. この気管支喘息患者の特徴として考えられるのはどれか

- (1) 鼻ポリープが多い
 - (2) 軽症喘息が多い
 - (3) IgEは低値が多い
 - (4) ステロイド依存性が多い
- a. (1)(3)(4)のみ
 - b. (1)(2)のみ
 - c. (2)(3)のみ
 - d. (4)のみ
 - e. (1)~(4)のすべて

3 4. 胸部X線上、Kerley's B lineをきたしやすいのはどれか

- | | | | | | | | | |
|-----|-----|---|---|---|---|---|---|---|
| (1) | 肺梗 | 塞 | | | | | | |
| (2) | 肺水 | 腫 | | | | | | |
| (3) | 癌性 | ン | パ | 管 | 症 | 肺 | 炎 | 支 |
| (4) | 特発 | 性 | 質 | 管 | 性 | 細 | 気 | 管 |
| (5) | びまん | 性 | 汎 | | | | | |

35. 本邦の過敏性肺臓炎について正しいのはどれか

- (1) 夏型過敏性肺炎炎が最も大きい原因である
(2) 夏型過敏性肺膣炎がは多大い原因である
(3) 農夫日本稀である
(4) 嘴鳴は伴西うにがとある
(5) 集団を発生する

36. 慢性肺気腫について正しいのはどれか

- (1) 肺胞壁の破壊を伴った気腔の拡張である
 - (2) α_1 アンチトリプシン欠損症は小葉中心型となる
 - (3) 喫煙によるものは汎小葉(汎細葉)型となる
 - (4) 本邦では汎小葉(汎細葉)型が多い
 - (5) 不規則型では呼吸機能障害は少ない

37. びまん性汎細気管支炎について正しいのはどれか

- (1) 病気の性変をと厚い
(2) 気管の性変をと厚い
(3) 肺管の性変をと厚い
(4) 小脳の性変をと厚い
(5) 小脳の性変をと厚い

- a. (1) (2) (3) b. (1) (2) (5) c. (1) (4) (5)
d. (2) (3) (4) e. (3) (4) (5)

[症例] 25歳の男性。検診胸部X線写真で、両肺野粒状影と両側肺門異常を認めた。胸部の聴診では異常音がオーテンション性だつた。血清アンギオテニン转换素(ACE)値は高値であったが、血清LDHは正常で、以前陽性だった。ベルクリン反応は陰性化していた。呼吸機能検査では、軽度の気道障害が認められたが、心電図は正常であった。消化管の検索ほか、眼科、耳鼻科、整形外科的にも異常なかった。

38. 気管支肺胞洗浄を行った場合、予想される結果はどれか

- (1) 総細胞数増加
 - (2) リンパ球比率増加
 - (3) 好中球比率増加
 - (4) 抗酸菌塗抹陽性
 - (5) CD4⁺/CD8⁺比上昇
- a. (1)(2)(3)
 - b. (1)(2)(5)
 - c. (1)(4)(5)
 - d. (2)(3)(4)
 - e. (3)(4)(5)

39. 経気管支肺生検を行った場合、得られる所見はどれか

- a. monoclonalなリンパ球の浸潤
- b. びまん性の胞隔炎
- c. 肺胞腔内の器質化
- d. 乾酪性類上皮細胞性肉芽腫
- e. 非乾酪性類上皮細胞性肉芽腫

40. 治療方針として正しいのはどれか

- a. 無治療で経過観察
- b. 副腎皮質ステロイド薬内服
- c. 入院し環境からの隔離
- d. 早期の化学療法
- e. 抗結核薬内服

4 1. 急性の感染症の指標として、最も有意義な検査所見はどれか

- (1) 赤沈の亢進
- (2) C R P 上昇
- (3) α_2 グロブリン上昇
- (4) γ グロブリン上昇
- (5) 血清補体価の低下

- a. (1)(2)
- b. (1)(5)
- c. (2)(3)
- d. (3)(4)
- e. (4)(5)

4 2. β ラクタム系抗生素が有効な疾患はどれか

- (1) 流行性脳脊髄膜炎
- (2) リステリア髄膜炎
- (3) 梅毒
- (4) 在郷軍人病
- (5) 韓国型出血熱

- a. (1)(2)(3)
- b. (1)(2)(5)
- c. (1)(4)(5)
- d. (2)(3)(4)
- e. (3)(4)(5)

4 3. キャンピロバクター腸炎に有効なのはどれか

- (1) ゲンタマイシン(アミノ配糖体薬)
- (2) セファゾリン(セフェム系抗生素)
- (3) エリスロマイシン(マクロライド系抗生素)
- (4) オフロキサシン(ニューキノロン系抗菌薬)

- a. (1)(3)(4)のみ
- b. (1)(2)のみ
- c. (2)(3)のみ
- d. (4)のみ
- e. (1)～(4)のすべて

4 4. 初期の慢性気道感染症の起炎菌となる頻度の高いのはどれか

- (1) インフルエンザ菌
- (2) パライソフルエンザ菌
- (3) 黄色ブドウ球菌
- (4) 肺炎球菌
- (5) ブランハメラ

- a. (1)(2)(3)
- b. (1)(2)(5)
- c. (1)(4)(5)
- d. (2)(3)(4)
- e. (3)(4)(5)

4 5. 肺炎球菌による大葉性肺炎に有効な薬剤はどれか

- (1) アンピシリン(ペニシリン系抗生素)
- (2) イミペネム／シラスタチン(カルバペネム系抗生素)
- (3) ゲンタマイシン(アミノ配糖体薬)
- (4) セフメタゾール(セファマイシン系抗生素)
- (5) エノキサシン(ニューキノロン系抗菌薬)

- a. (1)(2)
- b. (1)(5)
- c. (2)(3)
- d. (3)(4)
- e. (4)(5)

4 6. インターフェロン治療が有効な疾患はどれか

- (1) 多発性骨髓腫
- (2) 慢性骨髓性白血病
- (3) 急性リンパ性白血病
- (4) 自己免疫性溶血性貧血

- a. (1)(3)(4)のみ
- b. (1)(2)のみ
- c. (2)(3)のみ
- d. (4)のみ
- e. (1)～(4)のすべて

4 7. 悪性腫瘍治療後に発症する治療関連白血病(therapy-related leukemia)について、誤っているのはどれか

- a. 悪性腫瘍治療後、早期(数カ月以内)に発症するのがほとんどである。
- b. MDS様の病態を呈した後、発症する場合が多い。
- c. 急性骨髓性白血病の頻度が高い。
- d. 染色体の異常が高率に認められる。
- e. 治療に対する反応性は、de novo白血病に比して不良である。

4 8. 原発性肺癌について正しいのはどれか

- (1) 非小細胞性肺癌の比率が高い。
- (2) 小細胞性肺癌は肺野型がほとんどである
- (3) 女性では腺癌の比率が高い
- (4) 近年、肺癌の訂正死亡率は増加している

- a. (1)(3)(4)のみ
- b. (1)(2)のみ
- c. (2)(3)のみ
- d. (4)のみ
- e. (1)～(4)のすべて

4 9. 小細胞性肺癌(SCLC)について正しいのはどれか

- (1) 早期に全身転移を来たしやすい
- (2) 多剤併用による化学療法が主流である
- (3) Extensive Disease(ED)では、Neoadjuvant surgeryが有効である
- (4) Performance Status(PS)3の症例は、全例が化学療法の対象外である

- a. (1)(3)(4)のみ
- b. (1)(2)のみ
- c. (2)(3)のみ
- d. (4)のみ
- e. (1)～(4)のすべて

5 0. 腫瘍細胞の多剤耐性(Multiple Drug Resistance:MDR)現象について正しいのはどれか

- a. 再発後の腫瘍細胞は全てMDRを獲得している
- b. MDR現象は特定の癌腫のみに認められる
- c. p-glycoprotein(P-GP)は正常細胞にも認められる
- d. P-GPはp53遺伝子の産物である
- e. P-GPは主として核内蛋白として認められる